

主な医薬品とその作用

問1 かぜ（感冒）及びかぜ薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 「かぜ」は単一の疾患ではなく、医学的にはかぜ症候群といい、主にウイルスが消化器に感染して起こる急性炎症の総称である。
- b かぜの原因となるウイルスや細菌は、それぞれ活動に適した環境があるため、季節や時期などによって原因となるウイルスや細菌の種類は異なる。
- c かぜ薬は、かぜの諸症状の緩和を目的として使用される医薬品の総称であり、ウイルスの増殖を抑えたり、ウイルスを体内から除去したりする作用がある。
- d かぜは、くしゃみ、発熱などの様々な全身症状が組み合わさって現れるため、どのような場合でもかぜ薬（総合感冒薬）を選択することが最適である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	正	正	誤

問2 かぜ薬の配合成分とその配合目的に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

【配合成分】		【配合目的】	
a	グアイフェネシン	—	痰 ^{たん} の切れを良くする
b	イソプロピルアンチピリン	—	発熱を鎮め、痛みを和らげる
c	アミノエチルスルホン酸	—	咳 ^{せき} を抑える
d	ノスカピン	—	ビタミンなどの補給

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , d) 5 (c , d)

問3 かぜ薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a メチルエフェドリン塩酸塩は、依存性がある成分ではない。
- b トラネキサム酸には、凝固した血液を溶解されにくくする働きがあるため、血栓のある人や血栓を起こすおそれのある人に使用する場合は、治療を行っている医師に相談するなどの対応が必要である。
- c 水酸化アルミニウムゲルが含まれる医薬品は、抗ヒスタミン成分や鎮静成分の作用による眠気を解消する。
- d グリチルリチン酸二カリウムの作用本体であるグリチルリチン酸は、大量に摂取すると偽アルドステロン症を生じるおそれがある。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , d) 5 (c , d)

問4 かぜ薬に配合される漢方処方成分又は単独でかぜの症状緩和に用いられる漢方処方製剤に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 香蘇散^{こうそさん}は、体力虚弱で、神経過敏で気分がすぐれず胃腸の弱いもののかぜの初期、血の道症に適すとされる。
- 2 漢方処方製剤としての麻黄湯^{まおうとう}は、マオウの含有量が多くなるため、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）は使用を避ける必要がある。
- 3 桂枝湯^{けいしとう}は、インターフェロン製剤で治療を受けている人では、間質性肺炎の副作用が現れるおそれが高まるため、使用を避ける必要がある。
- 4 葛根湯^{かつこんとう}は、まれに重篤な副作用として、肝機能障害、偽アルドステロン症を生じることが知られている。

問5 解熱鎮痛薬とプロスタグランジンに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 解熱鎮痛薬によるプロスタグランジンの産生抑制は、肝臓での炎症を起こしやすくする可能性がある。
- b 解熱鎮痛薬は、プロスタグランジンの胃酸分泌調節作用や胃腸粘膜保護作用を妨げないため、空腹時に服用できるものが多い。
- c 月経痛（生理痛）は、月経そのものが起こる過程にプロスタグランジンが関わっていることから、解熱鎮痛薬の効能・効果に含まれる。
- d 解熱鎮痛薬は、中枢神経系におけるプロスタグランジンの産生は抑制しないが、体の各部（末梢）では抑制する。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

問6 次の成分を含む解熱鎮痛薬A、Bに関する記述のうち、誤っているものはどれか。

解熱鎮痛薬A 3錠中（成人1日量）

アセトアミノフェン	195mg
イブプロフェン	195mg
無水カフェイン	120mg
合成ヒドロタルサイト	40mg

解熱鎮痛薬B 4錠中（成人1日量）

アセトアミノフェン	600mg
エテンザミド	1,000mg
無水カフェイン	140mg
アリルイソプロピルアセチル尿素	120mg

- 1 炭酸飲料での服用で作用が低下することが考えられる成分を含むものはAである。
- 2 10才の小児に使用できるものはAである。
- 3 「ACE処方」と呼ばれる成分を含むものはBである。
- 4 服用後、乗物や危険を伴う機械類の運転操作を避ける必要のあるものはBである。

問7 眠気を促す薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、一時的な睡眠障害（寝つきが悪い、眠りが浅い）の緩和に用いられるものであり、慢性的に不眠症状のある人を対象とするものではない。
- b 抑肝散^{よくかんさん}は不眠の症状の改善などを目的としているが、小児の疳^{かん}や夜泣きにも用いられる。
- c 飲酒とともにブロモバレリル尿素を含む催眠鎮静薬を服用しても、その薬効や副作用に影響はないため、飲酒を避ける必要はない。
- d かぜ薬やアレルギー用薬などを使用したことによる眠気を抑えるために眠気防止薬を使用するのは適切ではない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	誤	誤

問8 鎮咳去痰薬^{がい たん}の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ハンゲは、中枢性の鎮咳^{がい}作用を示す生薬成分として配合されている場合がある。
- b メトキシフェナミン塩酸塩は、気道粘膜からの粘液分泌を促進することを目的として配合されることがある。
- c クロルフェニラミンマレイン酸塩^{がい}は、鎮咳成分や気管支拡張成分、抗炎症成分の働きを助けることを目的として配合されることがある。
- d カルボシステイン^{たん}は、痰の切れを良くする成分で、分泌促進作用・溶解低分子化作用・線毛運動促進作用がある。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , d) 5 (c , d)

問9 咳止めや痰を出しやすくする目的で用いられる漢方処方製剤のうち、以下の記述に当てはまるものはどれか。

体力中等度以下で、痰が切れにくく、ときに強く咳こみ、又は咽頭の乾燥感があるものから咳、気管支炎、気管支喘息、咽頭炎、しわがれ声に適すとされるが、水様痰の多い人には不向きとされる。

- 1 半夏厚朴湯
- 2 柴朴湯
- 3 麦門冬湯
- 4 五虎湯

問10 口腔咽喉薬・うがい薬（含嗽薬）及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 含嗽薬は、水で用時希釈又は溶解して使用するものが多く、調製した濃度が濃いほど効果が得られる。
- 2 口腔咽喉薬・含嗽薬は、局所的な作用を目的とする医薬品であり、口腔や咽頭の粘膜からは吸収されない。
- 3 ヨウ素系殺菌消毒成分に含まれるヨウ素は、乳汁中には移行しないため、母乳を与える女性でも問題なく使用できる。
- 4 クロルヘキシジン塩酸塩が配合された医薬品では、まれにショック（アナフィラキシー）のような全身性の重篤な副作用を生じることがあるため、この成分に対するアレルギーの既往歴がある人は、使用を避ける必要がある。

問11 胃の不調及び胃腸に作用する薬に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 消化薬は、炭水化物、脂質、タンパク質等の分解に働く酵素を補う等により、胃や腸の内容物の消化を助けることを目的とする医薬品である。
- 2 吐きけや嘔吐は、中脳にある嘔吐中枢の働きによって起こり、嘔吐中枢が刺激される経路には、消化管での刺激が副交感神経系を通じて嘔吐中枢を刺激する経路がある。
- 3 目的とする作用が異なる複数の成分を組み合わせたいわゆる総合胃腸薬には、制酸と健胃のように相反する作用を期待して、各成分が配合されている場合もある。
- 4 健胃薬、消化薬、整腸薬又はそれらの目的を併せ持つものには、医薬部外品として製造販売されている製品もある。

問12 胃腸に作用する薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ボレイ等の生薬成分は、それらに含まれるメタケイ酸アルミン酸マグネシウムによる作用を期待して用いられる。
- b カルシウムを含む成分については瀉下薬に配合される成分でもあり、下痢等の症状に注意することも重要である。
- c リュウタンが配合された健胃薬は、散剤をオブラートで包む等、味や香りを遮蔽する方法で服用されると効果が期待できず、そのような服用の仕方は適当でない。
- d かぜ薬には、制酸成分が配合されていることが多く、制酸薬との併用によって制酸作用が強くなりすぎる可能性がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問13 胃の薬に関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、2か所の(a)内はいずれも同じ字句が入る。

胃液の分泌は(a)系からの刺激によって亢進することから、過剰な胃液の分泌を抑える作用を期待して、(a)の伝達物質である(b)の働きを抑える(c)やピレンゼピン塩酸塩が配合されている場合がある。

	a	b	c
1	交感神経	アセチルコリン	アルジオキサ
2	交感神経	ノルアドレナリン	ロートエキス
3	副交感神経	アセチルコリン	ロートエキス
4	副交感神経	ノルアドレナリン	アルジオキサ
5	副交感神経	アセチルコリン	アルジオキサ

問14 腸に作用する薬の成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 トリメブチンマレイン酸塩は、消化管（胃及び腸）の平滑筋に直接作用して、消化管の運動を調整する作用がある。
- 2 ロペラミド塩酸塩は、腸管の運動を亢進させる作用を示すため、胃腸鎮痛鎮痙薬と併用されることがある。
- 3 次硝酸ビスマスは、アルコールと一緒に摂取されると、循環血液中への移行が高まって精神神経症状を生じるおそれがある。
- 4 クレオソートのうち、石炭クレオソートは発がん性のおそれがあり、医薬品としては使用できない。

問15 腸の不調を改善する目的で用いられる漢方処方製剤のうち、体力に関わらず使用できるものはどれか。

- 1 麻子仁丸
ましにんがん
- 2 大黃甘草湯
だいおうかんぞうとう
- 3 桂枝加芍薬湯
けいし かしやくやくとう
- 4 大黃牡丹皮湯
だいおうぼたんぴとう

問16 胃腸鎮痛鎮痙薬^{けい}の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 抗コリン成分のうち、ブチルスコポラミン臭化物は作用が消化管に限定されるため、緑内障の診断を受けた人への使用が推奨される。
- b パパペリン塩酸塩は、消化管の横紋筋に直接働いて胃腸の痙攣^{けいれん}を鎮める作用を示すとされる。
- c アミノ安息香酸エチルは、メトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため、高齢者への使用は禁忌とされる。
- d オキセサゼインは、局所麻酔作用があり、痛みが感じにくくなるため、長期間使用されることが多い。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	誤	誤

問17 駆虫薬及び駆虫成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 駆虫薬は腸管内に生息する虫体にのみ作用し、虫卵には駆虫作用が及ばない。
- b 駆虫効果が高まることを期待して、複数の駆虫薬を併用することがある。
- c パモ酸ピルベニウムは、回虫の自発運動を抑える作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。
- d カイニン酸を含む生薬成分として、マクリが配合されている場合もある。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , d) 5 (c , d)

問18 強心薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 強心薬については一般に、5～6日間使用して症状の改善がみられない場合には、心臓以外の要因も考えられる。
- b 苓桂朮甘湯には、強心作用を期待してシンジュが含まれている。
- c ゴオウは、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされる。
- d 一部の強心薬では、小児五疳薬の効能・効果を併せ持つものもあり、リュウノウは、中枢神経系に作用し、鎮静作用等を期待して配合される。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , d) 5 (c , d)

問19 高コレステロール改善薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 リノール酸は、コレステロールと結合して、小腸におけるコレステロールの代謝を促す効果を期待して用いられる。
- 2 リボフラビンの摂取によって尿が黄色くなった場合は、使用を中止する必要がある。
- 3 高コレステロール改善薬は、結果的に生活習慣病の予防につながるものであるが、ウエスト周囲径（腹囲）を減少させるなどの^{そう}瘦身効果を目的とする医薬品ではない。
- 4 ガンマ-オリザノールは、酵素により活性化され、糖質及び脂質の代謝に関与する細胞内の酸化還元系やミトコンドリアにおける電子伝達系に働く。

問20 貧血用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 鉄製剤を服用して便が黒くなることがあるが、鉄製剤の服用前から便が黒い場合は貧血の原因として消化管内で出血していることもあるため、服用前の便の状況との対比が必要である。
- b 貧血を改善するため、ヘモグロビン産生に必要なビタミンB₁₂や、正常な赤血球の形成に働くビタミンB₆や葉酸などが配合されている場合がある。
- c 鉄分の吸収は食後のほうが高いとされているため、鉄製剤は食後に服用することが多い。
- d 月経血損失のある女性や鉄要求量の増加する妊婦は、鉄欠乏状態を生じやすく、予防的に貧血用薬を使用することが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	誤

問21 痔・痔疾用薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 痔は、肛門付近の血管がうっ血し、肛門に負担がかかることによって生じる肛門の病気の総称で、その主な病態としては、痔核、裂肛、痔瘻がある。
- b 一般用医薬品の痔疾用薬には、肛門部又は直腸内に適用する外用薬と内服して使用する内用薬がある。
- c 痔に伴う痛み・痒みを和らげることを目的として、リドカイン塩酸塩等の局所麻酔成分が用いられる。
- d ヒドロコルチゾン酢酸エステル等のステロイド性抗炎症成分は外用痔疾用薬には配合されない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	誤	誤
5	誤	正	誤	正

問22 以下の記述について、あてはまる漢方処方製剤はどれか。

体力に関わらず使用でき、排尿異常があり、ときに口が渇くものの排尿困難、排尿痛、残尿感、頻尿、むくみに適すとされる。

- 1 防己黄耆湯
- 2 十味敗毒湯
- 3 猪苓湯
- 4 四物湯

問23 婦人薬の適用対象となる体質・症状及び配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 月経痛について、年月の経過に伴って次第に増悪していくような場合や大量の出血を伴う場合には、子宮内膜症などの病気の可能性がある。
- b 血の道症とは、臓器・組織の形態的異常があり、抑うつや寝つきが悪くなる、神経質、集中力の低下等の精神神経症状が現れる病態をいう。
- c 人工的に合成された女性ホルモンの一種であるエチニルエストラジオールは、女性ホルモンを補充するもので、^{ちつ}膣粘膜又は外陰部に適用されるものがある。
- d 女性ホルモン成分の摂取によって、吸収された成分の一部が乳汁中に移行することが考えられ、母乳を与える女性では使用を避けるべきである。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	正
5	正	誤	誤	正

問24 以下のうち、鎮痛・鎮静のほか、女性の滞っている月経を促す作用を期待して婦人薬に配合される生薬成分として最も適するものはどれか。

- 1 サフラン
- 2 オウレン
- 3 カンゾウ
- 4 レイヨウカク

問25 アレルギーの症状及びアレルギー用薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 肥満細胞から遊離したヒスタミンは、周囲の器官や組織の表面に分布する特定のタンパク質（受容体）と反応することで、血管収縮作用を示す。
- b 蕁麻疹^{じんしん}は、アレルゲンとの接触以外に、皮膚への物理的な刺激等によってヒスタミンが肥満細胞から遊離して生じるものが知られている。
- c 一般用医薬品のアレルギー用薬には、アトピー性皮膚炎による慢性湿疹^{しん}の治療に用いることを目的とするものがある。
- d メキタジンは、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）、肝機能障害、血小板減少を生じることがある。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , c) 5 (b , d)

問26 鼻炎・鼻に用いる薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 「花粉症」は、スギ等の花粉がアレルゲンとなって生じるアレルギー性鼻炎のひとつである。
- b スプレー式鼻炎用点鼻薬は、汚染を防ぐために容器はなるべく直接鼻に触れないようにするほか、他人と共有しないようにする必要がある。
- c クロモグリク酸ナトリウムは、アレルギー性鼻炎や副鼻腔炎^{くう}には無効である。
- d 鼻粘膜の過敏性や痛みや痒み^{かゆ}を抑えることを目的として、ナファゾリン塩酸塩等のアドレナリン作動成分が用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	誤

問27 眼科用薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a スルファメトキサゾールは、細菌感染（ブドウ球菌や連鎖球菌）による結膜炎やものもらい（麦粒腫）、眼瞼炎などの化膿性の症状の改善を目的として用いられる。
- b ネオスチグミンメチル硫酸塩は、コリンエステラーゼの働きを高めることで、目の調節機能を改善する効果を目的として用いられる。
- c 精製ヒアルロン酸ナトリウムは、角膜の乾燥を防ぐことを目的として用いられる。
- d プラノプロフェンは、ステロイド性抗炎症成分であり、目の炎症を改善する効果を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	誤

問28 痒み、腫れ、痛み等を抑える外皮用薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ヒドロコルチゾン酢酸エステルは、末梢組織（患部局所）における炎症を抑える作用を示す。
- b ハッカ油は、皮膚に温感刺激を与え、末梢血管を拡張させて患部の血行を促す効果を期待して配合される。
- c 酸化亜鉛は、患部のタンパク質と結合して皮膜を形成し、皮膚を保護する作用を示す。
- d フェルビナクは、内服で用いられる解熱鎮痛成分と異なり、喘息の副作用を引き起こす可能性がないため、喘息を起こしたことがある人でも避ける必要はない。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問29 肌の角質化、かさつき等を改善する外皮用薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a サリチル酸は、皮膚の角質層を構成するケラチンを変質させることにより、角質軟化作用を示す。
- b イオウは、角質成分を溶解することにより角質軟化作用を示す。
- c 角質層の水分保持量を高め、皮膚の乾燥を改善することを目的として、尿素が用いられる。
- d 角質軟化薬のうち、いぼに用いる製品については、医薬品としてのみ認められている。

1 (a , b) 2 (a , d) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問30 抗菌作用を有する成分及び抗真菌作用を有する成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a スルファジアジン等のサルファ剤は、細菌の細胞壁合成を阻害することにより抗菌作用を示す。
- b テルビナフィン塩酸塩は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げることで、その増殖を抑える。
- c フラジオマイシン硫酸塩は、細菌のDNA合成を阻害することにより抗菌作用を示す。
- d ピロールニトリンは、菌の呼吸や代謝を妨げることで、皮膚糸状菌の増殖を抑える。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , c) 5 (b , d)

問31 頭皮・毛根に作用する外皮用薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 毛髪用薬のうち「円形脱毛症」の疾患名を掲げた効能・効果は、医薬品においてのみ認められている。
- b 女性ホルモンによる脱毛抑制効果を期待して、女性ホルモン成分の一種であるエストラジオール安息香酸エステルが配合されている場合がある。
- c カルプロニウム塩化物は、末梢組織においてアドレナリンに類似した作用を示し、頭皮の血管を拡張、毛根への血行を促すことによる発毛効果を期待して用いられる。
- d ヒノキチオールは、頭皮における脂質代謝を高めて、余分な皮脂を取り除く作用を期待して用いられる。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , c) 5 (c , d)

問32 歯痛・歯槽膿漏薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a カルバゾクロムは、齲蝕（むし歯）を生じた部分における細菌の繁殖を抑えることを目的として用いられる。
- b ジブカイン塩酸塩は、齲蝕により露出した歯髄を通っている知覚神経の伝達を遮断して痛みを鎮めることを目的として用いられる。
- c ビタミンE（トコフェロールコハク酸エステルカルシウム等）は、歯周組織の血行を促す効果を期待して配合されている場合がある。
- d 銅クロロフィリンナトリウムは、炎症を起こした歯周組織の修復を促す作用のほか、歯肉炎に伴う口臭を抑える効果も期待して配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	誤

問33 以下の記述について、あてはまる漢方処方製剤はどれか。

体力中等度以上で口渇があり、尿量少なく、便秘するものの^{じん しん}蕁麻疹、^{しん}口内炎、^{しん}湿疹・皮膚炎、皮膚のかゆみに適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸が弱く下痢しやすい人では、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

- 1 ^{いんちんこうとう}茵陳蒿湯
- 2 ^{とう き いん し}当归飲子
- 3 ^{しん い せいはいとう}辛夷清肺湯
- 4 ^{ぼうふうつうしやうさん}防風通聖散

問34 ニコチン及び禁煙補助剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ニコチンは交感神経系を興奮させる作用を示し、アドレナリン作動成分が配合された医薬品との併用により、その作用を増強させるおそれがある。
- b うつ病と診断されたことのある人は、禁煙時の離脱症状により、うつ症状を悪化させることがあるため、禁煙補助剤の使用を避ける必要がある。
- c パッチ製剤は、1日1回皮膚に貼付することによりニコチンが皮膚を透過して血中に移行する。
- d ^{そしゃく}咀嚼剤は、^か噛むことにより^{くう}口腔内でニコチンが放出されるため、唾液が多く分泌されるよう菓子のガムのように噛むこととされている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	正	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	誤	誤

問35 ビタミン成分及びアミノ酸成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ビタミンCは、腸管でのカルシウム吸収及び尿細管でのカルシウム再吸収を促して、骨の形成を助ける栄養素である。
- b ビタミンB 1は、炭水化物からのエネルギー産生に不可欠な栄養素で、神経の正常な働きを維持する作用がある。
- c アスパラギン酸ナトリウムは、アスパラギン酸が生体におけるエネルギーの産生効率を高めるとされ、骨格筋に溜まった乳酸の分解を促す等の働きを期待して用いられる。
- d システインは、髪や爪、肌などに存在するアミノ酸の一種で、皮膚におけるメラニンの生成を促進する働きがある。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問36 生薬成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 カッコンは、マメ科のクズの周皮を除いた根を基原とする生薬で、解熱、鎮^{けい}痙等の作用を期待して用いられる。
- 2 レンギョウは、サルノコシカケ科のマツホドの菌核で、通例、外層をほとんど除いたものを基原とする生薬で、利尿、健胃、鎮静等の作用を期待して用いられる。
- 3 サイコは、セリ科のミシマサイコの根を基原とする生薬で、抗炎症、鎮痛等の作用を期待して用いられる。
- 4 サイシンは、ウマノスズクサ科のウスバサイシン又はケイリンサイシンの根及び根茎を基原とする生薬であるが、地上部には腎障害を引き起こすことが知られているアリストロキア酸が含まれている。

問37 殺菌消毒成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a クロルヘキシジングルコン酸塩は、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられることが多い。
- b 次亜塩素酸ナトリウムは、強い酸化力により一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対する殺菌消毒作用を示すが、皮膚刺激性が強いため、通常人体の消毒には用いられない。
- c イソプロパノールは、ウイルスに対する不活性効果がエタノールよりも高い。
- d 日本薬局方に収載されているクレゾール石ケン液は、原液を水で希釈して用いられるが、刺激性が強いため、原液が直接皮膚に付着しないようにする必要がある。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問38 衛生害虫及び殺虫剤・忌避剤に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 シラミは、シラミの種類ごとに寄生対象となる動物が決まっているため、ヒト以外の動物に寄生するシラミがヒトに寄生して直接的な害を及ぼすことはない。
- 2 イエダニは、日本脳炎、マラリア、黄熱、デング熱等の重篤な病気を媒介する。
- 3 殺虫剤は人体に対する作用が強いため、すべて医薬品として製造販売されている。
- 4 忌避剤は人体に直接使用され、蚊やノミ等が人体に取り付いて吸血するのを防止することに加えて、虫さされによる痒みや腫れなどの症状を和らげる効果もある。

問39 殺虫剤に含まれる以下の成分のうち、有機リン系殺虫成分はどれか。

- 1 フェノトリン
- 2 ジクロルボス
- 3 プロポクスル
- 4 メトプレン

問40 一般用検査薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 悪性腫瘍の診断に関係する検査薬には、医療用検査薬と一般用検査薬がある。
- b 検体中に対象とする生体物質が存在していないにもかかわらず、検査対象外の物質と非特異的な反応が起こって検査結果が陽性となった場合を偽陽性という。
- c 妊娠検査薬は、尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）の有無を調べるものであり、通常、実際に妊娠が成立してから12週目前後の尿中hCG濃度を検出感度としている。
- d 尿タンパク検査の場合、原則として早朝尿（起床直後の尿）を検体とし、激しい運動直後の尿は避ける必要がある。

- 1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , d) 5 (c , d)

医薬品の適正使用と安全対策

問41 要指導医薬品及び一般用医薬品の添付文書に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 重要な内容が変更された場合には、改訂年月を記載することとされているが、改訂された箇所を明示する必要はない。
- b 使用上の注意は、「してはいけないこと」、「相談すること」及び「その他の注意」から構成される。
- c 要指導医薬品の添付文書の内容は、医薬品の有効性・安全性等に係る新たな知見、使用に係る情報に基づき、2年に1回の改訂が義務づけられている。
- d 添付文書は、開封時に一度目を通されれば十分というのではなく、必要なときにいつでも取り出して読むことができるように保管される必要がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	正	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問42 医薬品の適正使用情報に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品は、効能・効果、用法・用量、起こり得る副作用等、その適正な使用のために必要な情報を伴って初めて医薬品としての機能を発揮する。
- 2 要指導医薬品は、薬剤師から情報提供を受けるので、一般の生活者にとって、添付文書や製品表示に記載されている情報は重要ではない。
- 3 医薬品の販売等に従事する専門家は、購入者等への情報提供及び相談対応を行う際に、添付文書や製品表示に記載されている内容を的確に理解する必要がある。
- 4 医薬品の販売等に従事する専門家は、その医薬品を購入し、又は使用する個々の生活者の状況に応じて、積極的な情報提供が必要と思われる事項に焦点を絞り、効果的かつ効率的な説明をすることが重要である。

問43 一般用医薬品の添付文書の使用上の注意において、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に、「透析療法を受けている人」と記載することとされている成分として、正しいものはどれか。

- 1 アスピリン
- 2 タンニン酸アルブミン
- 3 スクラルファート
- 4 オキセサゼイン

問44 一般用医薬品の添付文書における使用上の注意の記載に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 無水カフェインを含む眠気防止薬は、連用によって睡眠が不要になるというものではなく、適切な睡眠を摂る必要があるため「短期間の服用にとどめ、連用しないこと」とされている。
- b ポビドンヨードが配合された含嗽薬^{そう}は、ヨウ素の体内摂取が増える可能性があり、疾患の治療に影響を及ぼすおそれがあるため、「甲状腺疾患の診断を受けた人」は「相談すること」とされている。
- c ビタミンA主薬製剤は、妊娠3ヶ月前から妊娠3ヶ月までの間に栄養補助剤から1日10,000国際単位以上のビタミンAを継続的に摂取した婦人から生まれた児に、先天異常（口裂、耳・鼻の異常等）の発生率の増加が認められたとの研究報告があるため、「妊娠3ヶ月以内の妊婦、妊娠していると思われる人又は妊娠を希望する人」は「使用（服用）しないこと」とされている。
- d 次硝酸ビスマス^{しゃ}が配合された止瀉薬は、乳汁中に移行する可能性があるため、「授乳中の人」は「相談すること」とされている。

- 1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問45 アレルギー症状を訴えて、ジフェンヒドラミン塩酸塩が配合された内服薬を購入しようとしている30歳女性に対する登録販売者の説明内容として、正しいものはどれか。

- 1 眠気が現れることはありませんので、服用後、車の運転をしても差支えありません。
- 2 牛乳アレルギーの方は服用できません。
- 3 授乳中の場合は服用しないか、服用する場合は授乳を避けてください。
- 4 成分の過量摂取となるため、コーヒーやお茶と同時に服用しないでください。

問46 一般用医薬品の添付文書における使用上の注意の記載に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a だいおうかんぞうとう 大黃甘草湯は、徐脈又は頻脈を引き起こし、心臓病の症状を悪化させるおそれがあるため、「心臓病の診断を受けた人」は「服用しないこと」とされている。
- b ステロイド性抗炎症成分が配合された外用鎮痛消炎薬は、重篤な光線過敏症が現れることがあるため、「塗布部を紫外線に当てないこと」とされている。
- c セトラキサート塩酸塩が配合された内服薬は、生じた血栓が分解されにくくなるため、「血栓症を起こすおそれのある人」は、「相談すること」とされている。
- d ジヒドロコデインリン酸塩が配合された鎮咳去痰薬（内服液剤）は、依存性・習慣性がある成分が配合されており、乱用事例が報告されているため、「過量服用・長期連用しないこと」とされている。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問47 一般用医薬品の添付文書における使用上の注意の記載に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a スコポラミン臭化水素酸塩水和物は、心臓に負担をかけ、心臓病を悪化させるおそれがあるため、「心臓病の診断を受けた人」は「相談すること」とされている。
- b ピレンゼピン塩酸塩水和物は、目のかすみ、異常なまぶしさを生じることがあるため、「服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと」とされている。
- c サリチル酸ナトリウムは、外国において、ライ症候群の発症との関連性が示唆されているため、「15歳未満の小児」は「服用しないこと」とされている。
- d アセトアミノフェンは、けいれんを誘発するおそれがあるため、「けいれんを起こしたことがある小児」は「服用しないこと」とされている。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	誤	正

問48 一般用医薬品の添付文書における使用上の注意の記載に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般用検査薬は、その検査結果のみで自ら確定診断ができるので、判定が陽性の時は、時間のある時に医師の診断を受ければよい旨が記載されている。
- b 小児が使用した場合に特異的な有害作用のおそれがある成分を含有する医薬品では、通常、「次の人は使用（服用）しないこと」の項に「15歳未満の小児」、「6歳未満の小児」等として記載される。
- c 「次の人は使用（服用）しないこと」の項については、使用を避けるべき人について、薬剤師や登録販売者等の専門家に向けて記載されている。
- d 重篤な副作用として、皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死融解症、喘息^{ぜん}等が掲げられている医薬品では、アレルギーの既往歴がある人等は使用しないこととして記載されている。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問49 一般用医薬品の保管及び取扱い上の注意に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 散剤やカプセル剤は変質しやすいため、冷蔵庫内に保管されるのが望ましい。
- 2 医薬品を旅行や勤め先等へ携行するために別の容器へ移し替えると、日時が経過して中身がどんな医薬品であったか分からなくなってしまうことがあり、誤用の原因となるおそれがある。
- 3 家庭内に小児がいる場合でも、病人が容易に手に取れる場所である枕元に医薬品を置いておくことが望ましい。
- 4 シロップ剤は、雑菌の繁殖等を生じる可能性は極めて低いですが、取り出したときに室温との急な温度差で化学変化が起こるおそれがあるため、冷蔵庫内での保管は不適當である。

問50 一般用医薬品の製品表示に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 専門家への相談勧奨に関する事項は、症状、体質、年齢等からみて、副作用による危険性が高い場合若しくは医師又は歯科医師の治療を受けている人であって、一般使用者の判断のみで使用することが不適當な場合について記載されている。
- b 包装中に封入されている医薬品（内袋を含む）だけが取り出され、添付文書が読まれないといったことのないように、「使用にあたって添付文書をよく読むこと」等と記載されている。
- c 医薬品の保管に関する事項は、添付文書に注意事項が記載されているため、容器や包装には記載されていない。
- d 使用期限の表示については、適切な保存条件の下で製造後1年間性状及び品質が安定であることが確認されている医薬品であれば、法的な表示義務はない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	正	正	正	誤

問51 緊急安全性情報及び安全性速報に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 緊急安全性情報、安全性速報ともに、厚生労働省からの命令、指示、製造販売業者の自主決定等に基づいて作成される。
- b 緊急安全性情報、安全性速報ともに、製造販売業者から医療機関や薬局等への直接配布や、電子メール等による情報提供等により情報伝達される。
- c 緊急安全性情報は、医薬品、医療機器又は再生医療等製品の緊急かつ重大な注意喚起や使用制限に係る対策が必要な状況にある場合に発出されるもので、レッドレターとも呼ばれる。
- d 緊急安全性情報は、医療用医薬品又は医家向け医療機器についての情報伝達であり、要指導医薬品や一般用医薬品に関係する内容が発出されることはない。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問52 医薬品の安全性情報に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の製造販売業者等は、薬局開設者、店舗販売業者、配置販売業者及びそこに従事する薬剤師や登録販売者に対して、医薬品の有効性及び安全性に関する事項その他医薬品の適正な使用のために必要な情報を提供するよう努めなければならないこととされている。
- b 医薬品・医療機器等安全性情報は、青色地のA4サイズの印刷物で、ブルーレターとも呼ばれる。
- c 医薬品の製造販売業者等による情報提供がなされる場合にあっては、当該製造販売業者等の責任の下医療関係者へ伝達されるため、行政庁の関与の下で周知が図られることはない。
- d 独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページでは、要指導医薬品及び一般用医薬品に関連した「医薬品等の製品回収に関する情報」や「患者向医薬品ガイド」等が掲載されている。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	正	正

問53 購入者等に対する情報提供への活用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 令和3年8月1日から、医療用医薬品への紙の添付文書の同梱が廃止され、注意事項等情報は電子的な方法により提供されることとなったが、一般用医薬品等の消費者が直接購入する製品は、引き続き紙の添付文書が同梱されている。
- b 一般用医薬品の添付文書に「使用上の注意」として記載される内容は、その医薬品に配合されている成分等に由来することも多く、配合成分等の記載からある程度読み取ることとも可能である。
- c 一般の生活者が接する医薬品の有効性や安全性等に関する情報は、断片的かつ必ずしも正確でない情報として伝わっている場合も多く、医薬品の販売等に従事する専門家においては、科学的な根拠に基づいた正確なアドバイスを与え、セルフメディケーションを適切に支援することが期待されている。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	誤	誤	正
5	正	正	正

問54 医薬品医療機器等法第68条の10第2項の規定に基づく医薬品の副作用等の報告に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 複数の専門家が医薬品の販売等に携わっている場合、当該薬局又は医薬品の販売業において販売等された医薬品の副作用等によると疑われる健康被害の情報に接したすべての専門家から報告書が提出される必要がある。
- b 報告様式の記入欄のすべてに記入がなされる必要はなく、医薬品の販売等に従事する専門家においては、購入者等から把握可能な範囲で報告がなされればよい。
- c 報告期限は特に定められていないが、保健衛生上の危害の発生又は拡大防止の観点から、適宜速やかに、郵送、ファクシミリ又は電子メールにより、報告書を独立行政法人医薬品医療機器総合機構に送付することとされている。
- d 医薬品との因果関係が明確でない場合は、報告の対象とならない。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問55 医薬品副作用被害救済制度等に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による被害者の迅速な救済を図ることを目的としており、製薬企業の社会的責任に基づく公的制度である。
- 2 救済給付業務に必要な費用のうち、事務費については、製造販売業者から年度ごとに納付される拠出金が充てられるほか、給付費については、その2分の1相当額は国庫補助により賄われている。
- 3 健康被害を受けた本人（又は家族）の給付請求を受けて、その健康被害が医薬品の副作用によるものかどうかなど、医学的薬学的判断を要する事項について薬事審議会の諮問・答申が行われる。
- 4 医薬品副作用被害救済制度に加え、生物由来製品を介した感染等による健康被害の迅速な救済を図ることを目的とした「生物由来製品感染等被害救済制度」がある。

問56 医薬品副作用被害救済制度の救済給付の支給対象範囲に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 要指導医薬品又は一般用医薬品のうち、殺虫剤・殺鼠^そ剤は救済制度の対象とならないが、人体に直接使用する殺菌消毒剤や一般用検査薬は救済制度の対象となる。
- b 製薬企業に損害賠償責任がある場合にも救済制度の対象となる。
- c 医療機関での治療を要せずに寛解したような軽度の健康被害については給付対象に含まれない。
- d 個人輸入により入手された医薬品は、救済制度の対象となる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問57 以下の記述は、医薬品副作用被害救済制度の給付に関するものである。該当する給付の種類として正しいものはどれか。

医薬品の副作用による疾病（入院治療を必要とする程度）の治療に伴う医療費以外の費用の負担に着目して給付されるものである。請求の期限は、請求に係る医療が行われた日の属する月の翌月の初日から5年以内である。

- 1 葬祭料
- 2 遺族年金
- 3 障害年金
- 4 医療手当
- 5 遺族一時金

問58 医薬品副作用被害救済制度に基づく、要指導医薬品又は一般用医薬品の使用による副作用被害への救済給付の請求にあたって必要な書類として、正しいものの組み合わせはどれか。

- a その医薬品を販売等した薬局の薬局開設許可証又は医薬品販売業許可証の写し
- b その医薬品を製造した製造業者が作成した製剤証明書
- c 要した医療費を証明する書類（受診証明書）
- d その医薬品を販売等した薬局開設者、医薬品の販売業者が作成した販売証明書

- 1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問59 一般用医薬品の安全対策に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 小柴胡湯とインターフェロン製剤との併用例による間質性肺炎が報告されたことから、インターフェロン製剤との併用を禁忌とする旨の使用上の注意の改訂がなされたため、それ以降は小柴胡湯を使用して間質性肺炎が発症した事例は発生していない。
- b 解熱鎮痛成分としてサリチルアミドが配合されたアンプル入りかぜ薬の使用による重篤な副作用で、複数の死亡例が発生したことを踏まえ、1965年、厚生省（当時）は関係製薬企業に対して、アンプル入りかぜ薬製品の回収を要請した。
- c 塩酸フェニルプロパノールアミンが配合された一般用医薬品による脳出血等の副作用症例が複数報告されたため、厚生労働省から関係製薬企業等に対して使用上の注意の改訂や、代替成分としてプソイドエフェドリン塩酸塩等への速やかな切替えの指示がなされた。
- d 一般用かぜ薬の使用によると疑われる間質性肺炎の発生事例を受け、一般用かぜ薬全般につき、使用上の注意において「まれに間質性肺炎の重篤な症状が起きることがあり、その症状は、かぜの諸症状と区別が難しいため、症状が悪化した場合には服用を中止して医師の診療を受ける」旨の注意喚起がなされることとなった。

1（a，b） 2（a，c） 3（b，c） 4（b，d） 5（c，d）

問60 医薬品の適正使用のための啓発活動に関する以下の記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

医薬品の持つ特質及びその使用・取扱い等について正しい知識を広く（ a ）に浸透させることにより、保健衛生の維持向上に貢献することを目的とし、毎年（ b ）月17日～23日の1週間を「（ c ）」として、国、自治体、関係団体等による広報活動やイベント等が実施されている。

	a	b	c
1	生活者	10	薬と健康の週間
2	生活者	4	薬と健康の週間
3	医薬関係者	4	薬と健康の週間
4	医薬関係者	10	健康サポート週間
5	医薬関係者	4	健康サポート週間